

2011. 第20号

富山大学医学部同窓会報



2011. 第20号



富山大学医学部同窓会報

C O N T E N T S

- 4 . 『キラリと光る富山大学病院を創る』
＝病院長2年間の経験で考えてきたこと＝
附属病院長（脳神経外科教授） 遠藤俊郎
- 6 . 特区酒の味わい 会長 高田良久
- 9 . 同窓会名簿のオンライン化を開始します！
- 10 . 卒後臨床研修センターの取り組み 卒後臨床研修センター 藤浪 斗
- 11 . 第3回富山大学ホームカミングデーが
高岡キャンパスにて開催されました 理事長 田渕英一
- 16 . 特集“卒業生の今現在、そして将来” Part 15
清水 清美（医学科 平成4年卒）
森河 裕子（医学科 昭和57年卒）
中井 絵梨（看護学科 平成19年卒）
東海奈津子（看護学科 平成18年卒）
清水 宏美（看護学科 平成14年卒）
鈴木英理子（看護学科 平成9年卒）
- 24 . 〈新任教授挨拶〉
御挨拶 第一外科 芳村直樹
- 25 . 〈現役学生〉
富山大学医学薬学祭2010 角田麻衣子（医学科3年）
26 . 女子バスケットボール部 櫻井 禎子（医学科4年）
- 27 . 〈留学記〉
MontrealのMcGill大学Jewish General Hospitalへの留学
塚原珠里（医学科6年）
- 28 . 〈訃報〉
佐々木博先生を偲んで 宮林千春（医学科 昭和57年卒）
30 . 佐々木博先生を偲んで 南部修二（医学科 昭和57年卒）
32 . 佐々木博先生を偲んで 医学部第三内科 高原照美
34 . 追悼 佐々木博先生 高岡整志会病院 伊藤祐輔
35 . 追悼 木暮修治君 奥村昌央（医学科 昭和62年卒）
38 . 小林一昭先生を偲ぶ 尾関茂彦（医学科 平成2年卒）
-

染色工芸家。太平洋美術展・新人賞(1982年)、松吉賞(1984年)、太平洋美術会賞(1998年)受賞。各地工芸画廊をはじめ、日本橋高島屋(東京)、現代工芸藤野屋(栃木県佐野市)などで個展を開催している。また、1994年とちぎの美術女流作家100人展にも選ばれる。1999年銀座松屋にて個展を開く。いずれも好評を博す。栃木[蔵の街]音楽祭協力委員として地域文化活動にも貢献。縁あって本同窓会誌の表紙絵を1997年より依頼している。栃木県岩舟町在住。

〈定年退官寄稿〉

- 39 . 富山大学病態診断学(旧第一病理学)を退官して
神奈川県立がんセンター臨床研究所所長 高野康雄
- 41 . 医学部同窓会に出席して 坂口泰代(看護学科4年)
同窓会に参加して 清水洋介(医学科5年)
- 42 . 同窓会の入会率増加に向けた活動について
同窓会入会促進係 川口善治
- 44 . 同窓会入会に関してー看護学科の現状ー 基礎看護学 吉井美穂
- 46 . **富山大学附属病院新病棟が遂に完成!**

〈速報〉

- 52 . 厚生労働科学研究糖尿病対策戦略研究班
(富山大学医学部主宰)を巡って
富山県健康増進センター健診部担当医 富山医科薬科大学名誉教授 山本恵一
- 54 . 平成22年度富山大学附属病院関連病院長懇談会議事要旨
- 55 . 第62回西日本医科学生総合体育大会
- 56 . 医学部人事消息
- 57 . 平成22年度第29回医学部同窓会総会議事録
- 61 . 平成21年行事報告・平成22年行事・平成23年行事予定
- 62 . 平成21年度会計報告・平成22年度収支予算・平成23年度収支予算案
- 64 . 職掌分担・評議員一覧
- 66 . 編集後記
- 67 . 富山大学医学部同窓会オンライン名簿システムについては、
下記URLをご参照ください



『キラリと光る富山大学病院を創る』 ＝病院長2年間の経験で考えてきたこと＝

附属病院長(脳神経外科教授) 遠藤 俊郎

平成21年4月1日より富山大学附属病院病院長の職を務めてまいりました(以降、敢えて大学附属病院ではなく、大学病院と呼称させていただきます)。これまで本学の病院長は、副学長あるいは理事兼任であり、学長指名により決定されてきました。しかし今回は、20年秋の学長選挙後の理事体制変革のなか、教授兼任者が病院長を務めることとなり、立候補－予備選挙－病院運営会議選挙という新しい形で選ばれた病院長職でありました。私は附属病院において開設以来30年余りを過ごし、在籍する医師の中で最も勤続年数の長い最高齢の医師となってしまいました。同窓会の全ての皆様と、富山医科薬科大学・富山大学の歴史を共にしてきた者として、学内の意向をうけた選考で病院長に選ばれたことは大変光栄と感じ、この2年間全力でその職に取り組んできた次第です。2年間で振り返り、考えてきたこと・行ってきたことを書き留めてみます。

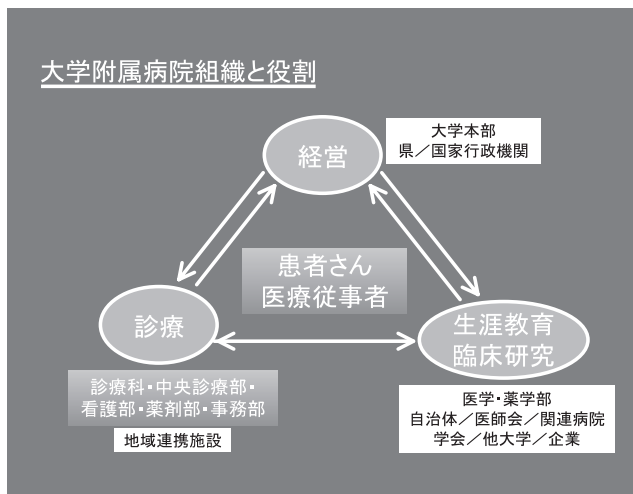
大学附属病院には、経営・運営、診療、教育・研究の3つの課題を克服することが求められています。これら3課題が作るトライアングルの中に、患者さんと教職員がおり、周辺には立場や意見の異なる様々な関連組織や社会があります。また現場業務においては、知的労働と肉体労働という異なる要素が常に混在します。(「大学附属病院組織と役割」を参照)

現在富山大学病院では、約1200名の教職員が就労し、150億円余りの年度予算運用が行われています。この額は、富山大学総予算の1/3を大きく越えるものであります。一方独立法人化後は、大学病院としては文科省の管轄下、医療機関としては厚労省の施策下というねじれ体制のもとにあり、特に昨今の医療変革の影響により、附属病院の経営・運営は極めて厳しい環境下

にあります。このような複雑な組織を潤滑に回転させることこそが大学病院発展の条件であり、同時にこれを妨げる問題への取り組みが具体的検討課題となってきます。

私は、医療人は①患者さんのニーズに応える、②自己の技量と能力の向上を図る、③後継者を育成する、の3つの責務を負わねばならぬと考えています。即ち、病院長としては、現場で働く教職員が元気で、充実感と将来への希望を持ち、この3つの責務を果たすことのできる環境を整えていくことがその役目と肝に銘じてやってきました。この2年間、病院内組織と人事体制の再構築、就労環境の改善、県内外における富山大学病院の存在感発揮など、いくつかの新しい課題解決への道をつけることができたと思っています。平成22年12月には、病院再整備第1期計画による新しい南病棟が完成したことは大きな思い出です。

ところで、私は本年4月から富山大学学長を努めることとなり、定年まで1年を残し3月末に病院から離れます。立場は変わっても、30年余りお世話になった富山大学医学部・病院こそは常に私の心の故郷であります。今後とも富山大学病院の発展のため、同窓生皆様の幸せのため、できる努力を続けていく所存であります。『キラリと光る富山大学病院』を創りあげるため、教職員皆様の益々の奮闘・成果を期待するとともに、関係各位のお力添えを心より願っております。富山大学医学部同窓会諸君、そして富山大学病院に幸あれ！



特区酒の味わい

会長 高田 良久

新潟県南西部にある上越市、その東方、頸城平野^{くびき}がつきて十日町に向かう峠道にさしかかろうとする辺りに北越急行線虫川大杉駅があります。保倉川のせせらぎと、国道253号線を通う車の音を除けば、静まりかえった無人駅。ここで一日数回、ちょっとしたイベントが起こります。時折、近所の坊やがお祖父ちゃんに連れられて見に来るほかは見る人もないイベント。それは越後湯沢と金沢を結ぶ特急『はくたか』同士のすれ違いです(写真1)。

都会の複線区間では当たり前すれ違っている電車ですが、田舎の単線区間にいくと、行き違いのできる場所で一方がとまり、もう一方をやり過ごさなければすれ違いはできません。虫川大杉はその行き違いの駅なのです。だから、最高速度160km/h、在来線最速を誇る特急『はくたか』も、この山間の小駅には止まらなければなりません。2010年9月25日の同窓会総会の帰り道、私はその写真を撮るためにこの駅を訪れました。

1971年(昭和46年)まで、この地域には頸城鉄道という軽便鉄道が走っていました。明治の終わりから大正にかけて、地域振興を託して各地に建設された主に線路幅762mmの軽便鉄道。『はくたか』(線路幅1067mm)なら15分ほどで走り抜ける距離を、頸城鉄道は実に1時間近くもかけてのんびり走っていたようです(写真2)。

虫川大杉に寄ることを思いついたのは、北陸新幹線が開通したら消えるであろう『はくたか』、母校と郷里の往復によく利用した特急『はくたか』の懐かしい姿をカメラに収めたい、と思ったからでした。

駅からちょっと行った集落に一軒の酒屋がありました。地酒とかかれた看板に惹かれて立ち寄ってみると、新潟の有名な「越の寒梅」「八海山」などととも、「越の白鳥^{はくちよう}」という「地元でも置く店は少ない」酒がありました。その特別純米、特区酒、辛口にごり酒、を求めてみたのですが、これが大変美味。ぽっちゃり美人とでもいったふくよかな味わいの特別純米、スリムに洗練された特区酒、アルコール度数19度という焼酎並みの辛口にごり酒、どれも手ごろな価格なのですがとても美味しいのです。「特区酒」とい



写真1 はくたか16号と17号

2010.9.26



写真2 頸城鉄道の貨客混合列車
(頸城自動車株のHPによる)

うのは、特区参入特定法人が棚田で栽培した米を使って醸造した地域・季節・数量限定の酒です。丹精こめて作る人と、それを愛飲する人がいて、棚田が生き、美酒が醸され続ける。そのダイナミズム。軽便鉄道法公布5年後の1914年(大正3年)に頸城鉄道を開通させたこの地域のそれが文化なのでしょう。ちなみに20世紀オペラの傑作のひとつR.シュトラウスの『薔薇の騎士』がドレスデン　ゼンパーオーパーで初演されたのはその3年前、1911年のことです。

酒屋の親父さんに薦められて、上越インターに戻るのではなく、国道253号線を十日町、六日町と辿り、関越道で帰ることにしました。正解でした。虫川大杉から十日町に抜ける儀明峠^{ぎみょう}あたりに棚田が美しく広がっていたからです(写真3)。

私にとって、2010年同窓会総会最大の収穫は、我々の学生時代とはあまりに違う最近の学生諸君の生の声を聴くことができたこと、そして、同窓会の存在を形にする必要に迫られていると痛感したこと、の二つです。

我々の学生時代というのは、1970年代後半から80年代に掛けてですが、当日ご出席の先生方の御髪もまだ黒々としており、当時助教授だった某先生の初講義第一声、

「ずいぶん来ているな、プリント足りないぞ」

を今も鮮明に覚えております。当時、「学生は講義をサボるもの」であり、プリントを少なく持ってこられる先生は「粋な先生」だったのかもしれませんが。今そんなことをしたら、「学ぶ権利の侵害だ」と叱られそうですね。学生気質も変われば変わるものです。

一方で一層深刻になった駐車場問題。本学(今では、杉谷キャンパスというべきでしょうか)の交通問題は、深刻さこそ違え、本質は変わりようありません。キャンパスごと市街地に移転するか、移転が無理なら、全国が富山に注目するLRT (Light Rail Transit)でも敷設しない限り、解決しない問題でしょう。

LRTといえば、総会の翌日、あまりに天気が良かったので、岩瀬浜まで行って立山連峰をバックに富山ライトレール「ポートルム」の写真を撮りました(写真4)。

今はバッテリーで走る電車も開発されていますから、非電化の高山線を経由し、分岐させてちょっと延ばせば杉谷まで鉄道を引くことは不可能ではないと思います。問題は、それを決断する知事、市長と県・市議会議員を本学関係者で擁立できるか、でしょうか。そのあたりのパワーバランスにも、同窓



写真3 儀明の棚田

2010.11.23



写真4 ポートルム 岩瀬浜にて

2010.9.26

会存在の意義は大きいかもしれません。

2010年12月11日、順天堂大学11号館センチュリータワーを訪れました。SPIRIT-J study の中間報告会としての第3回糖尿病循環器研究会およびクリスマスパーティーに参加するためです。このstudyは、DPP-4阻害剤の治療効果と安全性を検討し、本邦の糖尿病治療に役立てることを目的とした自主臨床研究で、研究代表者は糖尿病・内分泌内科綿田裕孝教授と循環器内科代田浩之教授、同学臨床研究センターが事務局となり、同学同窓生を中心に研究が進められています。私のような学外者にもお声がかかるあたりが順天堂の校風なのかもしれません。こうした試みは同大でも初めてのようですが、大学と同窓会が協力して新たなエビデンスの構築を図るというのは生産的でとてもいいことではないか、と思いました。これも同窓会の形かもしれません。

写真5は、クリスマスパーティーで同大 JAZZ 部の演奏に飛び入り参加した江東区の先生の姿です。達者なピアノに満座は喝采でした。

先日宇都宮に来演された戸邊一之教授から、「人材育成のため、ぜひ同窓会で寄付講座を」という宿題をいただきました。とりあえず一千万円くらい用意できれば取っ掛かりがつかめるようなのですが皆様いかがでしょう。1期生、2期生はじめ、諸兄弟のなかには、そういうことなら一肌脱ごう、という皆様もいらっしゃるのではないのでしょうか。「まとまった金を集められるか否か」は、その会の力であり、存在を示す一つの方法でもあると思います。いろいろ課題もありましょうが、ここはひとつ、本会の「力試し」として、一千万募金という形を作ってみてはいかがでしょうか。一千万を一人で用意しようとするとなかなか大変ですが、50名の有志が10万づつ、100名の有志が5万づつ拠出すれば達成できます。ならば、目標はもっと高い方がいいのではないか、など、いろいろご意見もあろうか、と思います。ご検討どうかよろしくお願いします。

頸城野を行く鉄道は、軽便から『はくたか』、そして新幹線へと変わっていきます。しかし峠の棚田は変わらず耕され、収穫された米は今年も特区酒へと醸されていくのでしょうか。

あの地域に生きる人々の思いと営みは、棚田や美酒といった「形」となって訪れる者に迫ってきます。江戸期以来の伝統を誇る順天堂大学も、教授陣・同窓生が一体となって、医学医療大学への思いを、たとえば臨床研究センター、SPIRIT-J studyといった「形」にされているように思いました。我々富山に集うものは、どんな思いをどんな形にするのか、その答えを皆で出そうではありませんか。



写真5 センチュリータワー19階 2010.12.11



筆者 奥川大杉駅にて 2010.11.23

同窓会名簿のオンライン化を開始します！

1. 運用予定について

- ・3月23日(卒業式)から試験運用を開始します。(予定)
- ・開始日より同窓会ホームページ上からログイン画面にご案内します。

2. セキュリティ確保に対する留意点

1) システムに関すること

- ・通信は暗号通信で行われます。(ssl)
- ・会員認証は会員番号、メールアドレスにて行いますが、接続先はメールにて案内、且つ認証の度が変わります。(ワンタイムURL方式)
- ・画面を放置した場合等、自動的に終了画面になります。

2) 使い方に関すること

- i) 同窓会にメールアドレスを登録された会員のみが対象となります。
- ii) 検索対象は会員全員としますが一画面で表示するデータは会員一名のみとします。
- iii) 利便性を考えデータはテキストにして表示する。(予定)
- v) 会員個人データは適時の記入・変更でき、開示の有無も選択できる。(内容確認のため、事務局での承認後オンライン名簿に反映されます)
- vii) 学年単位の名簿については、オンライン名簿では表示できません。

※学年単位の名簿が必要な場合は、事務局へお尋ねください。会員本人が申請し、提供するに十分な説明がなされ、申請者の所属の確認ができた場合のみ提供します。

※昨今、悪徳業者によるマンション勧誘等のトラブルが多発しております。同窓会の名前を悪用したり、病院関係者を名乗ったりと悪質化しています。その対策として、オンライン名簿では、セキュリティの強化を図っております。会員からの漏洩がない限りは、個人情報は保護されますので、どうか安心して個人情報を掲載していただきたいと存じます。

※ 個人情報は、本人の操作により削除もできますが、使用される会員の立場に立っていただき、できるだけ情報の開示をしていただくよう、ご協力の程宜しくお願い致します。

※ 現在中断している冊子としての会員名簿の再発行も考えております(5年に1回程度)。その際、メール配信で掲載内容の確認を致しますが、できるだけ利用者の便を考慮していただければ有り難く存じます。宜しくお願い致します。

〈使用については、67Pをご参照下さい〉

卒後臨床研修センターの取り組み

卒後臨床研修センター 藤浪 斗 (医学科 平成12年卒)

富山大学附属病院卒後臨床研修センターの藤浪です。私は平成12年に富山医科薬科大学を卒業し、第三内科に入局しました。現在は富山県寄附講座の地域医療支援学講座に所属し、第三内科の診療業務を行う傍ら、卒後臨床研修センターの職務も行っていきます。卒後臨床研修センターでは、研修医の確保、研修プログラム作成、研修医管理を主な業務としています。ご存じのように、新臨床研修医制度が平成16年から始まって以来、全国の大学病院は研修医確保に非常に苦慮しており、当大学も大変苦勞しているのが現状です。

当院での研修医確保対策については、まず学生時代からの取り組みも強化しています。当センターと専門医養成支援センターのスタッフが中心に「進路相談」を個別に行うことで、卒後研修の相談を受けながら個別に当院の研修の魅力を伝えることのできる良い機会となっています。研修医がたくさん集まる人気病院や、毎年少しずつ研修医の数を増やしている病院の取り組みを参考に、富山大学でも大幅な研修内容の見直しを行いましたのでご紹介します。富山大学附属病院では「オーダーメイドプログラム」と称する非常に自由度の高い研修プログラムを提供しています。従来の診療科選択は「3カ月単位」でしたが、より選択の幅を広げるため「最短1カ月単位」の選択を全診療科で可能にしました。また、内科選択は臓器別に「消化器内科」のような選択も可能にし、一人ひとりの将来設計に沿った自由なプログラム編成が人気を集めています。また2年間の研修期間中、1カ月の地域研修が必修となっています。従来、地域研修は診療所や保健所で研修を行っていましたが、身近な地域医療を体験してもらうために、「クリニック研修」を企画しています。具体的にはクリニック研修1週間×2施設と、連携病院研修2週間で地域医療を学ぶものです。このプロジェクトには、大学卒業の先生方のご協力も必要です。ぜひご協力いただければ幸いです。

このように、富山大学でも全国の研修病院には負けない研修内容を展開していますが、我々だけの努力にも限界があるようです。富山大学が単なる「医師養成学校」にならないように、研修医が将来後輩を育成していく「大学病院」の機能を維持していくためにも同窓生の力が必要です。今後も強力に富山大学をバックアップしていただきますよう、よろしく申し上げます。

第3回富山大学ホームカミングデーが 高岡キャンパスにて開催されました

理事長 田 渕 英 一

平成22年10月30日(土)午後1時30分～4時、富山大学高岡キャンパスに於いて、第3回富山大学ホームカミングデーが開催されました。「ホームカミングデー」は、卒業生に母校を訪れてもらい、卒業生に愛校心を育んでもらうためのイベントとして、富山大学では平成20年に第1回が五福キャンパスにて開催され、第2回(平成21年)は杉谷キャンパスにて開催されました。第3回(平成22年)は、芸術文化学部が主体となり、漆コース、デザインコース、建築コースの3つに分かれて学内施設見学会が行われ、途中、同時開催の創己祭を見学し、その後、懇談会で幕を閉じました。参加者は、各学部同窓会から47名が参加し、その他学生及び一般者が数名ずつ参加しました。

高岡キャンパスでも、今回が初めてのホームカミングデー開催ということで、ホームカミングデーの開催主旨の説明から、開催方法、段取り、学部内での意思統一など、かなり準備が大変だったそうですが、参加者の皆さんは、普段触れることの少ない芸術の裏表を見ることができ、大変ご満悦の様子でした。

ホームカミングデーは今年度で3回目となりますが、実行役員の一人として、大学内の教職員間の交流がいかに少ないかということを実感しています。学部内だけでなく学部間の交流は、お互いの活動を理解したり、大学の一体感を形成する上でも必要なことと思います。そしてホームカミングデーは、大学教職員の協力なしには遂行できないイベントです。関係者の方々にはご足労をかけますが、今後とも、ご協力の程宜しくお願い致します。

※ なお、来年度のホームカミングデーは五福キャンパスでの開催を予定しています。

普段触れることの少ない異分野の知識や技術に触れることは、脳の活性化にも効果があります。会員の皆様におきましては、ご多忙のこととは存じておりますが、是非一度ホームカミングデーに参加してみてください。心よりお待ちしております。